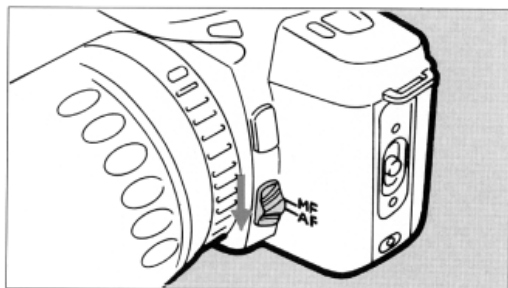


標準的な撮影



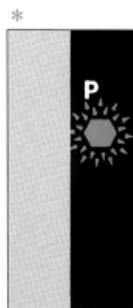
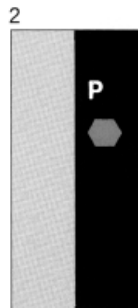
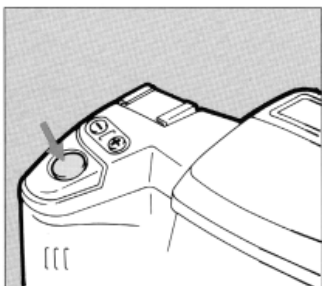
図のように、フォーカスレバーを「AF」[オートフォーカス] 側にします。

シャッターボタンを軽く押すとレンズが自動的に動いてピントを合わせます。ピントが合うまではシャッターが切れません。通常は、レバーをこの位置にしてお使いください。

* マニュアルフォーカスの使い方については、56ページをご覧ください。

17

2 オートフォーカスでピントを合せます



1. 写真のように、AFフレーム「」を写したいものに合わせて、シャッターボタンを軽く押します。

2. ピントが合うと、ファインダーの中の「」が緑色に光って、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

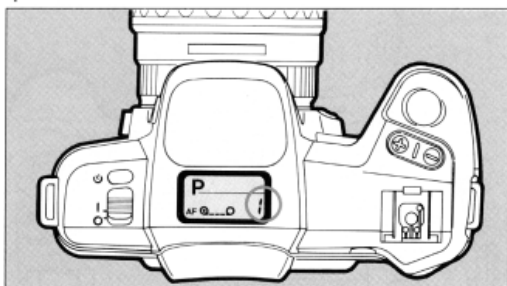
* 「」が点滅を続けるときは、以下の理由でピント合わせができないときです。

- ①撮影距離が近すぎる。
- ②オートフォーカスの苦手な被写体の場合。
[55ページ]



3. さらにシャッターボタンを押し込むと撮影できます。

- * ビントが合わないときシャッターは切れません。
- * 一度ファインダー内の緑ランプ [] が点灯すると、シャッターボタンを押している間ビントが固定されますから、別のものにビントを合わせ直すときは、シャッターボタンから指を離して押し直します。
- * オートフォーカス作動中は、レンズの距離リングに手をかけたり回転を妨げたりしないでください。
- * SMCペンタックスFソフト85mm F2.8レンズを使用するときは、絞りをF2.8～4.5で撮影してください。[55ページもご覧ください]



4. 表示パネルの撮影枚数表示はシャッターを切るごとに進みます。

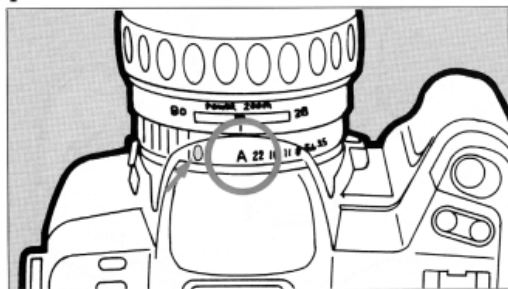
※構図によってAFフレーム [] を写したいものに合わせることができないときは、フォーカスロック撮影をしてください。[32ページ]

動体予測

シャッターボタンを軽く押してビント合わせをしているときに、カメラが被写体を動体と判断すると、自動的に動体予測に切り替わります。この場合には、レンズが連続的に駆動し、常に被写体にビントを合わせ続けます。

- * 被写体が速すぎるときには、シャッターが切れないことがあります。

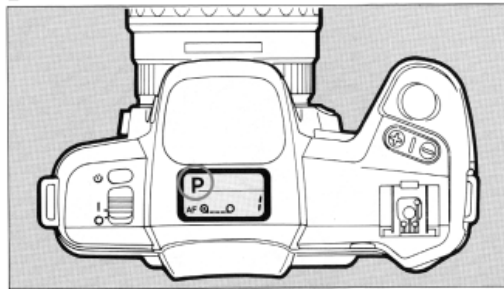
3 プログラム自動露出に合わせます



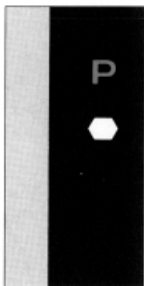
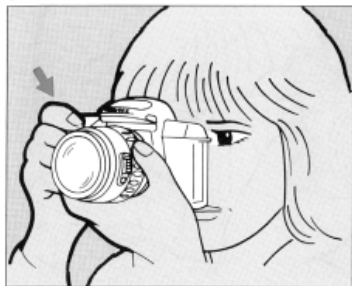
カメラが自動的に露出を決定しますので、シャッターボタンを押すだけで簡単に撮影が楽しめます。

1. 図のように、絞りオートロックボタンを押したまま、絞りリングを回して [A] にします。

- * [A] にすると、絞りリングが固定されます。



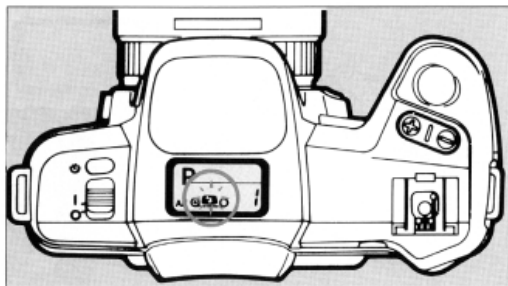
2. 図のように、表示パネルに [P] が出ることを確認します。



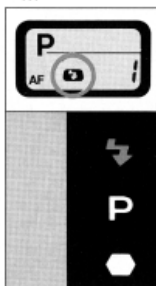
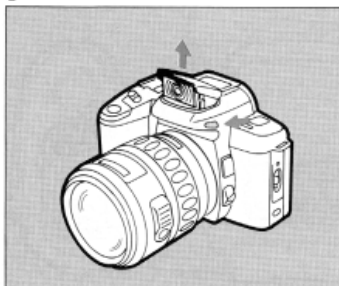
3. ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを軽く押し、ファインダーの右上に「P」の表示が出ることを確認します。

プログラム自動露出では、被写体の明るさに応じてカメラが最適露出になるように絞りとシャッター速度を自動的に決定します。

- * マニュアル露出の使い方は、40～41ページをご覧ください。



- * ファインダー内の  および表示パネルの  が点滅したときは、次ページのように内蔵ストロボをご使用ください。



内蔵ストロボで撮影します。

1. 図の  ボタンを押して、ストロボを上へ飛び出させます。

※充電が自動的に始まり、充電が終わると表示パネルに  が表示されます。シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内にも  が表示されます。
[充電時間は約4秒です]

- * 内蔵ストロボで撮影できるのは、焦点距離が35mmから210mmまでの範囲です。[マクロレンズを除く]



2. さらにシャッターボタンを押してストロボ撮影をします。撮影後、内蔵ストロボは矢印部分を押して収納してください。

- * 内蔵ストロボの充電中はオートフォーカスが働きません。
- * 内蔵ストロボの充電中はシャッターが切れません。
- * マニュアル露出 [絞りがA位置以外] のときの使い方は、47ページをご覧ください。
- * プログラム自動露出では内蔵ストロボはプログラムTTLオートストロボとしてはたります。
[51ページ]

開放絞り値	撮影範囲
F1.4~2.8	0.9~4.3m
F3.5	0.7~3.4m
F4.7	0.7~2.5m
F5.6	0.7~2.1m

- ⑧ ストロボが使える距離は、上表のように、ご使用のレンズの開放絞り値[開放F値]により変化しますからご注意ください。開放絞り値は、レンズに1:1.4のように表示されています。[F1.4の場合]

ご使用上の注意

レンズが不適切な場合の警告表示

下記のF・FAレンズおよび、内蔵ストロボの使用に適さないF・FAレンズでは、充電が完了してからシャッターボタンを軽く押すと表示パネルの  やファインダー内の  が点滅して警告します。

- レンズの焦点距離が35mm未満の場合
- マクロレンズの場合

警告が出た状態で撮影すると、画面の四隅が暗くなるケラレが出たり、画面下部に半円形のケラレが出たりしますのでご注意ください。F A・F レンズ以外を使用した場合は警告表示がされませんから、特にご注意ください。

- * ストロボの光路を遮ることがありますので、レンズフードは使わないでください。
- * 35mmの焦点距離で撮影する場合、配光ムラが出ることがありますので、1 m以上の距離で撮影してください。
- * FAズーム28~105mmレンズの場合、焦点距離が約40mm以下の広角側で内蔵ストロボを使用すると画面下部に半円形のケラレがでることがあります。

赤目現象について

一般に「赤目現象」といわれ、暗い中で人物のストロボ撮影を行ったときに、目が赤く写る現象です。これは、ストロボの光が網膜に反射するために起こる現象と言われています。赤目を完全に防ぐことはできませんが、できるだけ周りを明るくして撮影するか、ズームレンズでしたら広角側にして近距離で撮影するなどの方法を利用すると軽減することができます。外付けストロボをご使用のときは、ストロボをできるだけカメラから離すと効果があります。





ファインダーを覗きながらズーミングをすると、写したいものが大きくなったり[テレ]、小さくなったり[ワイド]します。好みの位置に合わせて撮影してください。

- * パワースームリングの数字が小さいときは、写る範囲が広い広角側に、大きいときは遠いものを大きく写す望遠側になります。

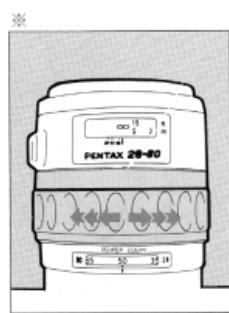
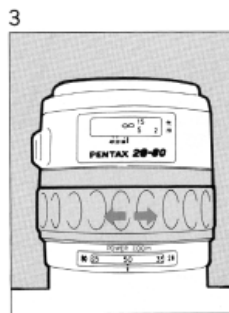
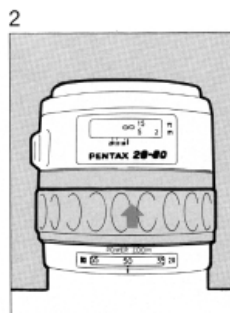
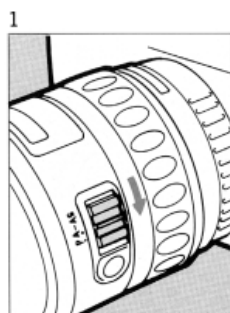


標準的な撮影



25

FAズームレンズを使用したとき(パワースームの使い方)



1. ペンタックスFAズームレンズにはオートズームスイッチが付いています。このスイッチを **[P]** [パワースーム] にセットします。
2. パワースームリングを前側に出して、**[POWER ZOOM]** が見えるようにします。

3. パワースームリングを右に回すと望遠 [テレ] 側へ、左に回すと広角 [ワイド] 側に動き、手を離すと止まります。

※ パワースームリングを回す角度によってズーミング速度が3段階に変わります。[図参照]

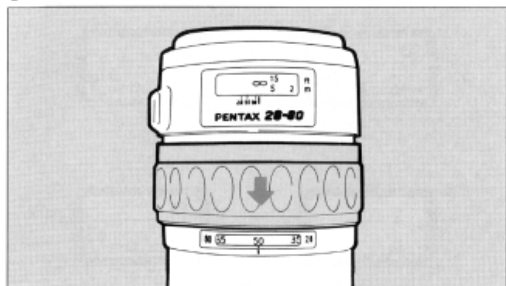
* 内蔵ストロボの充電中は、パワースームが動きません。

* FAズームレンズ使用時電源を切ると、自動的にレンズの長さが最短になります。

この場合、距離リングの位置は∞に、焦点距離はレンズの長さが最短になる位置になります。

FAズームレンズを使用したとき(マニュアル[手動]ズームの使い方)

1



1. パワーズームリングを手前に引いて、**POWER ZOOM** が隠れるようにします。

2



2. パワーズームリングを左右に回して、好みの焦点距離に合わせます。

Fレンズを使用したとき
ズームリングを左右に回して、好みの焦点距離に合わせます。

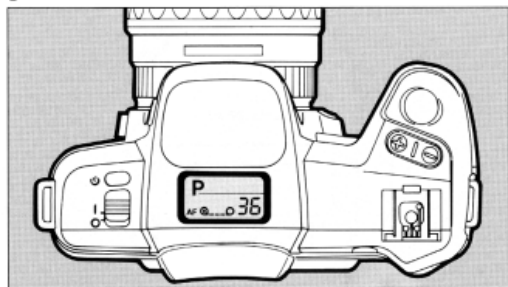
標準的な撮影

27

5

フィルムの取り出し方

1

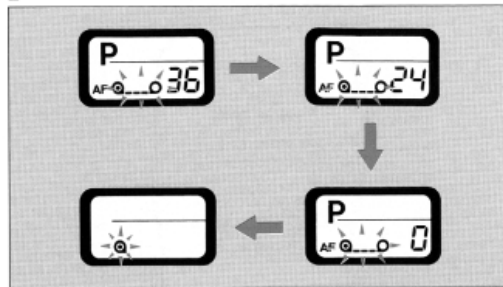


1. フィルムは最後まで撮り終わると、巻き戻しが自動的に始まります。

- * 巻き戻し中は、表示パネルに が点滅し巻き戻し中であることを知らせます。
- * 巻き戻し中は、表示パネルに撮影枚数が逆算表示されます。

- ③ フィルムは直射日光が当たらないところで取り出してください。

2



2. 巻き戻しが終了すると、表示パネルの が点滅し、撮影枚数の表示が消えます。

標準的な撮影

28